

復興の先を見つめて・ これからの塩竈

平成24年は、震災の復旧も進み、復興へ向けて動き出した年でした。「第5次長期総合計画」「塩竈市震災復興推進計画」のもと、新しいまちづくりが始まっています。

今回の新春座談会では、産業・観光・医療と、さまざまな立場のゲストをお迎えし、ケーブルテレビ・マリネットの佐藤愛由美さんの進行のもと、市長・議長とこれからのまちづくりについて、お話しいただきました。

新しい年に向けて

司会 あけましておめでとうございませう。平成25年の新春座談会、まずは市長からご挨拶いただきます。

市長 あけましておめでとうございませう。今年、震災を乗り越え、今まで通りの生活を取り戻す年と考えております。そのためには、まちに活気やにぎわいを、子どもたちに夢や希望を取り戻すことが大切です。震災では、塩竈の歴史や文化を伝える文化財にも被害がありました。未来に引き継ぐべき、塩竈らしい塩竈をつくっていくため、今日はご参加の皆さまに、さまざまな意見・ご提案をいただければと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

司会 ありがとうございます。では、ご出席の皆さまにも自己紹介を兼ねて一言お願ひいたします。

池野 震災当時は停電し、分娩中の妊婦さんや手術後でまだ麻酔が切れていない患者さんもいる中、津波が来るとの放送もあり、大変な状況でした。これをきっかけに防災対策を院内でも作成しましたので、今後の災害に対する備えはできたかと思ひます。

佐浦 昨年は、事業をほぼ震災前と同じまにに戻せたかと思ひますが、全国の皆さんから、震災復旧・復興として、清酒の販売に対して多大なるご支援をいただきました。日本人の絆の強さを実感し、感謝いたしてあります。



池野 暢子 さん
塩竈市教育委員
いけの産婦人科小児科医院院長



嶺岸 淳一 塩竈市議会議長



佐藤 昭 塩竈市長



▶「イクメン講座」は、育児に参加するお父さんたちに、手遊びなどを指導



▶浦戸寒風沢では、秋に立派なお米が収穫できました

▶職員派遣などで支援いただいている長野県須坂市から、塩竈へのツアーが企画され、クルーズやまちあるきを楽しんでもらいました



▶塩竈の歴史を学ぶ「塩竈学問所講座」。シンポジウムでは、参加者が熱心に聞き入っていました



また、大きな被害のあった浦戸寒風沢では、田んぼが復興しました。震災で被害を受けたけれど、それを乗り越えている姿を、もつと多くの人に知ってもらいたい。災害の教訓をいかして教育などに活用できるのではないのでしょうか。
議長 塩竈は、いいところだとよく言われます。一番いいのは、病院がいつでもあることだ、と。子どもを育てるにはいい環境です。そんなまちに、人が入ってこないはずがない。定住人口を増やすためには、あとひとひねり、工夫が必要かと思えます。
市長 よく職員には「足下に泉あり」と言っています。地域の宝をもう一度掘り出して磨きをかけていけば、さきほどの「ついのすみかに」という方がもつと出てくるのではないのでしょうか。人がいてこそそのまちなので、暮らす人の生活環境をどうするかを、考えなくてはなりません。しっかりと力を入れていきたいところです。市民との絆を太くしていくのが行政のつとめだと感じています。

塩竈の魅力を発見・発信

司会 いろいろなお話し、ありがとうございます。では、最後に一言ずつお願いいたします。
石川 DCに向けて、駅の係員も勉強中です。案内する立場の人間が何も知らないわけにはいきませんので、自分たちが率先してまちを歩き、地元の方にお話しを聞いて、塩竈の観光のプロとしてお客様を迎えたいと思います。
池野 産科というのは、危険と隣り合わせの医療です。常に安全な医療を提供できるよう、日ごろからの心構えが大切です。当院では、年に2回、防災訓練を行っています。マニュアルだけではなかなか頭に入ってきてませんが、体を動かしての訓練なら効果があります。市でも、さまざまところで訓練を行い、災害に備えていただきたいと思えます。
佐浦 昨年5月に、日本酒と焼酎を「國酒」とし、官民が連携して輸出の拡大を目指すプロジェクトが動きだしました。内閣府に「國酒を築もう推進協議会」が立ち上げられ、わたしもそのメンバーとして関わりましたが、プロジェクトの中で、地域振興や観光推進のひとつとして、「酒蔵ツーリズム」というものも提案しています。酒蔵を訪問してもらい、地域の食文化などいかに楽しんでい



ただくかを考え、取り組んでいきたいと思えます。
議長 今まで、遠い地域の方々も、興味があってもなかなかこちらまで来られなかったようです。今度のDCでは、今まで来られなかった地域の人々にも来ていただき、塩竈の魅力を感じてほしいと思います。
市長 本日はお忙しい中、ご出席いただいて感謝申し上げます。皆さまからは、今後5年、10年先の塩竈をつくっていくためのご提案をいただきました。「定住」「連携」「交流」を推進するため、福祉の充実、DCや文化・歴史などの魅力の発信による交流人口の増加と、定住に向けての働きかけなど、市民と絆を結びながら、訪れてよかった、住んでよかったと思っただけの塩竈になるよう、努めてまいります。